令和５年度

学校だより
令和５年４月７日

さつきが丘　４月号

第３５８号

「守・破・離」

校長　仲川　由佳理

今年は桜の花の満開時期が例年より早くなりましたが、校庭の八重桜が新入生の入学と、進級した子どもたちをお祝いするかのように咲き誇っています。

令和５年度は、５７名の新１年生を迎え、児童数４７２名、職員３９名でスタートしました。自己判断によるマスクの着脱により、改めて笑顔いっぱいの子どもたちと再会し、今年も楽しい学校生活を送ることのできる予感に心躍る始業式でした。

さて、特別活動の研究をしていた時に、恩師から「守・破・離」という言葉を教えていただいたことがあります。

「守」は、師や流派の教え、型、技を忠実に守り、確実に身につける段階。「破」は、他の師や流派の教えについても考え、良いものを取り入れ、心技を発展させる段階。「離」は、一つの流派から離れ、独自の新しいものを生み出し確立させる段階。

https://dictionary.goo.ne.jp/word/参照

子どもたちが進める学級会は、正にこの「守・破・離」に当てはまるという経験をしました。司会の子どもは話合いの進め方（マニュアル）を読みながら、議題に対してみんなで問題解決をするために話合いを進めます。回数を重ねやがて慣れてくると、賛成・反対の意見を言う友達の意図を理解した上で、「〇〇さん、これまでの友達の意見を聞いて、どうでしょう？今回は、A 案で取り組んでみませんか？〇〇さんの B 案は、◇◇の時にみんなでやりませんか？」と話をして、折り合いをつけようとする司会者がいました。「わかりました。B 案を必ずやってくれるということなので、じゃあ、今回は A 案でいいです。」と、〇〇さんはうんうんと納得した表情で座る場面がありました。学級会が終わった後に、「先生、話し合うのって本当に楽しい！」と自分に寄って来た子どもの姿が今でも忘れられません。マニュアルは渡したけれど、自分で経験を積み重ねながら話合いの進め方を探っていったのだと察しました。極めるということは本当に凄いなと、改めて思いました。今年は、昨年度以上に子どもたちの活動範囲が広がる予感がします。いろんな教育活動を通して、体験を重ねて「極める」子どもが増えていくように、職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。